



さくらっこ!



戸塚区青少年指導員協議会は



目次

P. 1…いじめの構造 / P. 2・3…戸塚区内の各地区紹介!
P. 4…第29回チャレンジフェスティバル開催 / 2023年度 下期行事・2024年度 上期行事予定

子育て ワンポイント!

No.27

いじめの構造

古今東西、いじめや嫌がらせ(ハラスメント)は残念ながら日常から消し去ることのできない現象の一つです。戦争も見方によってはいじめの一種と言えるかも知れません。

親としては「自分の子がいじめられたらどうしよう」だけでなく「自分の子が誰かをいじめていたらどうしよう」と不安を感じることもあるのではないのでしょうか。

どうしていじめが起こるのか、その構造を三つの立場から考えてみましょう。

【いじめる側の子ども】

いじめる子どもが、いじめの対象にするのは「身体的または能力的に自分より下に見えて(事実は分かりませんが)、我慢強く音を上げないタイプ」が多いようです。返り討ちにあっては困りますし、すぐに助けを呼ばれてもバテてしまいます。からかったり、ちょっとした嫌がらせをしたりして相手や周りがどのように反応するかを観察し、いじめ甲斐のある者をターゲットにします。

その目的の多くはストレスの発散です。実はいじめる側も他の誰か(親や先生、大人や上級生など)から虐げられていて、そのストレスをうまく発散できない、受け止めてもらえる相手がない環境にあることが多いのです。加害者も被害者、いじめの連鎖です。「打ち明ける」勇気を子どもに持たせましょう。

【いじめられる側の子ども】

前述したように、いじめられるタイプは決して弱くなく、むしろ「我慢強い」のです。なぜ助けを求めないのか。それは、親や周りに「心配をかけたくない」「弱いと思われたくない」「相手が飽きるまで待とう」との思いが強いからでしょう。また、いじめが分かっているはずの同級生や仲間が、何も行動しないどころか同調したり一緒に楽しんだりしているような態度に、失望や落胆もあるのかも知れません。環境

や状況が変わるまでひたすら耐える力が弱点になっていることを自覚しなければ、心の病に陥ってしまいかねません。「嫌なことは嫌と言う」勇気を子どもに持たせることが必要です。

【周りの子どもたち】

いじめの構造の役割分担は、一見ボケとツッコミ、いじりキャラといじられキャラとも見ることができます。それゆえに、いじめなのかふざけて遊んでいるのか判断が付きづらいケースもあります。そしてそれこそが、発見や報告を遅らせることにつながります。また、明らかにいじめと思ってもターゲットが自分に向くことを恐れ言えないことも多いでしょう。それは「傍観者」というグループに自分の身を置くことが一番安全だからです。一人が無理なら複数で「声を上げる」勇気を子どもに持たせるようにしてください。

いじめの発見には「いじめられる側」からのSOSサインが重要です。目的を持った本格的ないじめは小学校の高学年から始まることが多いですが、その言葉以外のサインは「食欲・睡眠」などの生活態度の変化に現れます。保護者としては「何かあったの?」と「聴く姿勢」が大切です。

しかし、最終的に最も重要になるのは「周りの子どもたち」からの情報提供です。いじめかふざけ遊びかも含め「自分がされて嫌なことは嫌だろう」、もう一歩進んで「自分がされて平気な事でも嫌かも知れない」と、「傍観者」から抜け出して「大丈夫か?」と相手の気持ちを推し量る思いやりを持つことが何よりも大切です。

だからこそ、まずは保護者である大人たちが保身からの「傍観者」ではなく、勇気を出して意思表示をする姿を子どもたちに見せましょう。

